

令和6年度 授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> ① 字形が崩れてしまうことがあるので、とめやはね、はらいなどを意識して書けるようにする。 ② 算数科の文章題で、たし算かひき算かを読み取れていないことがあるので、加法や減法を使う場面を理解して、正しく立式できるようにする。 ③ 自分の思いや考えなどを表現することに抵抗感を持っているので、話す楽しさを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 文字指導の際は、ポイントを意識して書くことができるよう指導していく。また、日々丁寧な書字指導を繰り返し行っていく。 ② 繰り返しのブロック操作を通して、加法や減法の意味を正しく理解させる。また、キーワードとブロック操作を結び付けて、計算の理解を深めて、立式できるよう指導していく。 ③ ペアやグループから学級全体へと段階的に話す活動を取り入れていく。また、聞く姿勢や質問の仕方などの指導を行い、話し手が話すことの楽しさを感じることができるようしていく。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ① 時計、かさ等の「C 測定」領域の学習を理解できていない児童が見られる。 ② 国語科での文章の読解、算数科での文章題の読み取りが十分にできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 測定をする前に見当を付けさせたり、量の大きさを実感させたりする活動を行う。また、適切な単位を用いて繰り返し表現させ、日常生活に生かすようにする。確実に定着するよう、忘れた頃や年度末の復習で繰り返し扱う。 ② 何を答えるのかや何を尋ねられているのかが分かるようにポイントをおさえて繰り返し指導する。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ① わり算の計算が素早くできないことやあまりのあるわり算を正しく求められないことの原因として、かけ算九九の習得ができていないことが考えられる。正しく習得できていない児童が多い。 ② 国語科の文章の読解、算数科の文章題の読み取りが十分にできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 算数科の授業開始 5 分間で、毎時間百マス計算に取り組み、かけ算九九の定着を図る。時間を決めて実施し、自身のかけ算九九の習得が正しくできているかや、素早く求められているかを記録することで、主体的に取り組めるようにする。 ② 何を答えるのかや何を尋ねられているのかが分かるようにポイントをおさえて繰り返し指導する。聞かれていることに正しく答えられるように、ペア学習で互いに質問し合ったり、教科書やワークシートに尋ねられていることにチェックを入れて全体で確認したりして、対話的な活動の中で指導を積み重ねていくようにする。
四年	<ul style="list-style-type: none"> ① 算数科では、わり算の筆算を手順よくスムーズに計算できる児童と、計算の仕方の定着が弱い児童の差が大きい。 ② 全教科的に、授業内で一度取り組んだ問題については解くことができるが、応用的な内容になると問題が読み解くことができず、解けなくなってしまう児童が多い。 ③ 学習における主体性や、対話的な場面での自分の意見の表出が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2 学期以降のわり算の筆算の単元で、筆算の手順を含む基本を再度確認する。計算領域の単元中は毎授業の初めに計算問題を数題解く時間を確保するなどして、定着を確かなものにする。 ② 読解の必要感がある教材を用意し、読解力をつけられるような発問を工夫する。応用的な問題にも対応できるよう、基礎基本の考え方を授業内で反復して取り組ませる。友達と考えを共有する場面を意図的に作り、多面的に思考を広げられるようにする。 ③ 教員が主体的・対話的な学びについて研修し、授業に生かす。児童が必要感をもって取り組めるような教材・発問を工夫する。
五年	<ul style="list-style-type: none"> ① 算数科において、数の構成や計算は、正答率が高かったが、作図や文章題は、正答率が低かった。問題を整理して捉える力や既習を活用して考える力に課題がある。 ② 国語科では、説明的文章の要旨を捉えることが難しく、文章の大事な部分を読み取り、まとめる力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 文章題を整理して捉えるために、数直線・線分図などに表すことの有用性を実感させる。考えを共有し活用するために、発表された式を他の児童が図を用いて説明したり、友達が考えた方法で適用問題を解いたりする場面を大切にす。図形の性質や構成要素のどこに着目して作図したのか、操作と結びつけて説明させる。また、デジタル教材を用いて、理解を深める。 ② まずは、段落ごとの要点をつかむ。キーワードや筆者の意見が述べられている文を的確に見抜き、短くまとめることができるようにする。その際に、タブレットPCを活用して意見を交流させる。
六年	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力調査の国語科では、全国平均よりも2.1ポイント低かった。実際の学習の様子を見ていても、音読がたどたどしかったり、条件に合わせて自分の考えを書くことが苦手だったりする様子が見られる。 ② 算数科においては、課題解決に粘り強く取り組むことや、解決方法を言葉や図、式を使って分かりやすく表現することが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 書いてあることを正確に読み取るために、説明文では段落ごとの要点を掴ませる。また、物語文では場面の様子を図や絵で表すようにさせる。筆者の考えに対する自分の意見を書かせたり、物語の主題を考えさせたりする学習も行う。タブレット PC を活用して、他の児童の考えとの交流を図りながら、自分の考えをまとめさせる。 ② 課題解決のために見通しをもたせてから、課題解決に取り組ませたり、他の児童の表現方法を参考にしながら、徐々に自分自身で解決方法を説明できるようにさせたりして、学びが深まるようにする。